

24日 木曜

ガラテア

3:19 それでは、律法とは何でしょうか。それは、約束を受けたこの子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたものです。

3:20 仲介者は、当事者が一人であれば、いいません。しかし約束をお与えになった神は唯一の方です。

3:21 それでは、律法は神の約束に反するのでしょうか。決してそんなことはありません。もし、いのちを与えることができる律法が与えられたのであれば、義は確かに律法によるものだったでしょう。

3:22 しかし聖書は、すべてのものを罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人たちに与えられるためでした。

3:23 信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視され、来たるべき信仰が啓示されるまで閉じ込められていました。

3:24 こうして、律法は私たちをキリストに導く養育係となりました。それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。

3:25 しかし、信仰が現れたので、私たちはもはや養育係の下にはいません。

3:26 あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。

3:27 キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。

3:28 ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男と女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。



3:29 あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。

神様は律法による救いを明言しながら、しかしキリストによる救いを与えられました。そこで「律法は神の約束に反するのでしょうか。」という問いかけがなされますが、「そんなことはありません。」とパウロは言います。なぜなら人は律法を守りきることができないので、救われることがないから、神様はキリストによる救いを与えてくださったのです。

そこで、では律法とは何のためにあったのかという問いが生まれますが、パウロはそれは「私たちをキリストへ導くため」であったと言います。つまり律法があることによって、神の義を知り、その義を全うできない自分の弱さや罪深さを自覚するということです。

ですから律法的に生きてしまう弱さを私たちは持っていますが、それによって自分の弱さを自覚して、そこからイエス様の十字架の愛と聖霊の力に立ち返るべきです。

そのように十字架のあわれみで生きることが、自分を誇らないで、互いに「一つ」となれる道なのです。クリスチャンの群れはそのように、十字架のもとで謙遜になる人々によって成り立っているものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

